

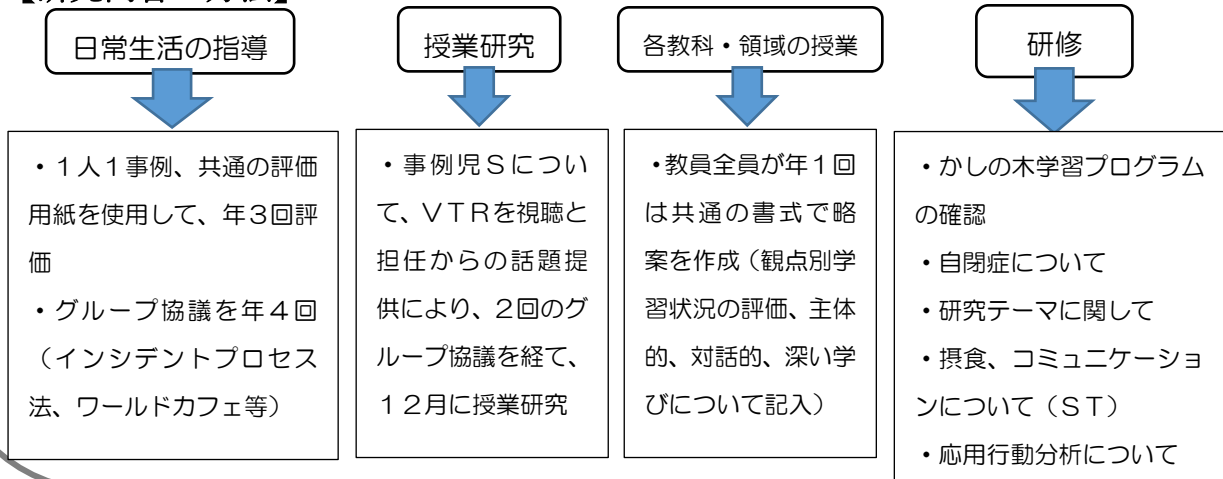
「社会生活に生きる力を育む指導の充実」

「日常生活の指導の充実～基本的な生活習慣の確立・コミュニケーションスキルの育成～」

【はじめに】

昨年度の研究の中で、小学部の時期に育てたい力として圧倒的に多く挙げたのが「身辺自立に関する力（自分でできることを増やす）」と「自分の気持ちや要求を他者に伝える力・コミュニケーション力」だった。また、昨年度末のアンケート結果でも、困っていることとして「日常生活の指導場面」でのことや「問題行動」についてが多く挙がり、取り組んでいきたい研究テーマとしても、「日常生活の指導」や「コミュニケーション」についてが多く挙げた。そこで、小低の教員のニーズに合った研究をしたいという考えから、これまで研究の中心としては取り上げられてこなかった「日常生活の指導」に焦点を当てて進めることとした。

【研究内容・方法】



【実践報告】

(1) 日常生活の指導

①共通の評価用紙の活用

小低ブロックの教員全員が、それぞれ1名の児童に対して、コミュニケーションスキルの向上を図るための共通の評価用紙を使用して、児童の実態、目標と手だて、行動変容等について年3回の評価を行った。

②グループ協議による情報交換と指導力向上

1回目(6月)：「コミュニケーション」「問題行動」「身辺自立」それぞれのテーマ別に事例を出してもらい、グループ別に協議を行った。（インシデントプロセス法）

2回目(7月)：事例児Sについて、日常の場面のVTR視聴と担任からの話題提供により、グループ協議を行った。（KJ法）

3回目(10月)：事例児Sについて、日常の場面のVTR視聴と担任からの話題提供により、グループ協議を行った。（手法はワールドカフェ）

項目	評価	達成度	備考
挨拶	○	○	
名前を呼ぶ	○	○	
名前を呼ぶ声	○	○	
名前を呼ぶ回数	○	○	
名前を呼ぶ声の大きさ	○	○	
名前を呼ぶ声の長さ	○	○	
名前を呼ぶ声の調子	○	○	
名前を呼ぶ声の回数	○	○	
名前を呼ぶ声の大きさ	○	○	
名前を呼ぶ声の長さ	○	○	
名前を呼ぶ声の調子	○	○	
名前を呼ぶ声の回数	○	○	
名前を呼ぶ声の大きさ	○	○	
名前を呼ぶ声の長さ	○	○	
名前を呼ぶ声の調子	○	○	
名前を呼ぶ声の回数	○	○	



(2) 授業研究・研究協議

授業研究のVTR視聴、授業者からの話を受けて、「成果」（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価項目に沿って）と「課題・改善策」について、グループ協議を行い、発表し合った。小谷教頭からの指導講評もいただいた。



(3) 各教科・領域の授業

小低ブロック教員全員が年1回は共通の書式で略案を作成（ねらいや評価の観点や主体的・対話的で深い学びについての項目を入れたもの）

(4) 各種研修

①かしの木学習プログラムの確認（4月）

「6つの育てたい力」「学習指導要領の内容を簡単にまとめたものが載っているが、詳しい内容は学習指導要領を参考にすることが必要なこと」についての確認

②自閉症についての研修（4月）

総合支援部の小林健吾教諭による講義「自閉症の人を正しく理解する」

（「自閉症スペクトラムとは何か」「自閉症の特性と具体的な指導法」について）



③研究テーマに関する研修（7月）（職員全体研修会）

講師：国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター教育・福祉連携推進官の畠山和也先生 テーマ：「社会生活に生きる力を育む指導の充実」 概要：「①社会生活に生きる力とは」「②卒業後を考え、小低、小高、中、高、各段階で、どういう力をつけておくとよいのか。」「③教育と福祉の連携について」

④コミュニケーションについての研修（9月）（小1児童のケース会議）

講師：言語聴覚士の古山慎治先生

小1児童のケース会議に小低教員全員で参加して、事例を通して古山先生のお話をお聞きした。

⑤応用行動分析についての研修（1月）

講師：研究部教員（菅原）による講義・演習「応用行動分析の基本」

（「応用行動分析の目的とは」「行動のABCフレーム」「実際の指導への生かし方」等について）

【まとめ】

アンケート結果から、どの取り組みも、「理解が深まった」「指導に生かされた」という教員がほとんどだったが、その中で「とても思う」に比べて「まあまあ思う」と答えた教員の方が多かった。より一人一人の教員のニーズに合った研究内容・方法となるように今後もさらに工夫が必要である。取り組みとしては、「1人1事例、年3回評価」により、児童の行動変容を考えながら目標と手だてを見直すことができた。「協議で様々な手法を取り入れた」ことにより、多くのアイデアが生まれ、共有することができた。「共通の書式での略案作成」により、ねらいや評価について、一人一人が意識を高めて授業づくりをすることができた。

【今後の課題】

- ・来年度も継続して「コミュニケーションスキルの育成」については取り組んでいきたい。一方で、「基本的生活習慣の確立」についてはほとんど触れてこなかったもので、来年度は、重点的に取り上げて、知識を深めたり、考えを出し合ったりしていきたい。
- ・来年度も共通の評価シートのようなものは使用したいと考えているが、分かりやすく、どの児童に対しても書きやすいように工夫したシートを作成できるとよい。評価シートを使用することにより、今年度同様、客観的に評価できるようにしたい。
- ・アンケートの記述欄の来年度への要望として挙げられたことのうち、テーマに沿った研究の中で、できることは取り入れていきたい。
- ・研究授業をする教員だけでなく、教員1人1人が自分のこととして研究を捉え、主体的に参加できるように、来年度も研究内容・方法を工夫していきたい。